



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 株式会社イーディーピー 上場取引所 東
コード番号 7794 URL https://www.d-edp.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤森 直治
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長兼総務部長 (氏名) 高岸 秀滋 TEL 06-6170-3871
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	237	—	△174	—	△158	—	△162	—
2024年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 △162百万円 (—%) 2024年3月期第1四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△12.38	—
2024年3月期第1四半期	—	—

(注) 1. 当社は、2025年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年3月期第1四半期の数値及びこれに関する対前年同四半期増減率については記載していません。
2. 2025年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	5,158	4,687	90.9
2024年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 4,687百万円 2024年3月期 一百万円

(注) 2025年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年3月期の数値については記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,362	—	274	—	263	—	180	—	13.70

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 連結業績予想につきましては、2025年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) エス・エフ・ディー株式会社、除外 1社 (社名) -

(注) 詳細は、添付資料P. 7 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	13,138,400株	2024年3月期	13,135,400株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	406株	2024年3月期	385株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	13,135,985株	2024年3月期1Q	13,122,115株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(重要な後発事象)	8

1. 経営成績等の概況

当社グループは、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。従いまして、前年同四半期累計期間及び前連結会計年度との比較分析は行っておりません。

また、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

（1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、イスラエルとパレスチナの紛争と、ロシアのウクライナ侵攻の両者が継続し、依然として資源価格が高止まりしました。米国景気は堅調に推移し、米国連邦準備制度理事会（FRB）は利下げのタイミングを計っていましたが、決定的な情勢変化が無く、金利は高止まり状況でした。米国の消費動向は強い状況が続いており、株高が後押ししていると考えられました。日本の景気は横ばいで推移し、ゼロ金利政策から離陸はしたものの、さらに利上げが進む状況にはなく、この間の円・ドルの為替相場は大幅な円安に振れました。

2023年3月期第4四半期から、LGD（Laboratory Grown Diamond:人工ダイヤモンド宝石、以下「LGD」といいます。）の市場が大きく変化し、小型宝石を中心に大幅な価格低下が進展しました。これは生産方式の変化と、製造企業の規模の拡大や新規企業の立ち上げによる生産能力の拡大がもたらしたと考えられます。LGDの価格低下は、天然ダイヤモンドビジネスにも大きな影響を与え、価格下落が進み、このために関連企業の業績低下が明確となりました。LGDのダイヤモンド市場に占めるシェアは拡大しており、天然ダイヤモンドを凌駕することが単なる空想ではなくなっています。

当社の2024年3月期における種結晶売上は、2023年3月期の約5分の1に低下しました。市場全体の変化が当社の種結晶売上の低下に影響していることは事実ですが、当社がユーザーを発掘しきれていないという問題も顕在化してきました。2024年1月にLGD分野のビジネスを拡大すべく、エス・エフ・ディー株式会社（以下「SFD」といいます。）を設立しましたが、さらにLGD関係企業が多数活動しているインドにおいて、種結晶販売や情報収集の機能を持つ現地法人の設立を2024年5月に決定しました。当第1四半期連結累計期間においては、このインド現地法人の活動を開始できませんでしたが、設立準備は進展しておりますので、当初の考えに沿った活動が開始できると期待しております。

2023年3月期までの当社の種結晶ユーザーは、小型宝石を中心にビジネスを行っていたため、上記市場全体の変化の影響を強く受けています。一部のユーザーにおいては生産の中止も起こっており、経営を揺るがす事態も発生しています。このこともあって、当第1四半期連結累計期間における種結晶売上は、170,179千円と依然として低いレベルで推移しました。しかし、インドのSuratにおいて試験的な販売も実施し、上記のインド現地法人の活動開始への準備を行いました。

基板・ウエハ関連の売上は、従来、毎会計年度の第1四半期においては低調ですが、当第1四半期連結累計期間においては従来になく活発で、57,502千円と前年同期比（前年同期は当社単体決算）では約3倍の売上となっております。これは、国内のベンチャーを含むデバイス開発を行っている企業の活動が活発であり、大学等の研究機関も従来以上に当社製品を購入したためでした。海外への出荷も同様に、前年同期とは大幅に異なった状況となりました。

2022年12月に改訂された輸出貿易管理令によって、ダイヤモンドの基板等が規制品目に入り、これに対応するため当局とのコミュニケーションを継続してまいりました。2023年4月から一時輸出を保留し、2023年7月から輸出申請を行って通常の輸出を再開しましたが、当局とはそれ以降においてもコミュニケーションを行ってきました。

2024年5月21日に経済産業省より、当社が2022年12月から2023年4月にかけて規制品目であるダイヤモンド基板等を、経済産業省の許可を得ずに輸出しておりましたことに関し、厳正な輸出管理を徹底するよう厳重注意を受けました。当社としては、今回の厳重注意を厳粛に受け止め、これまで以上に法令遵守を徹底し、コンプライアンス研修などの強化を図る等の社内体制を整備し、再発防止に努めております。

種結晶の受注が大幅に減少し、売上が回復しない中、支出を抑えるべく生産設備の一部休止を含む費用削減策を講じてきました。成長装置やイオン注入装置の一部については、完全に停止を行って、電力消費を最小限としております。また、購入資材についても必要最小限に絞るなどの対策を継続しております。

上場企業としてのガバナンスの向上を継続的に進める必要があり、関連する人員の増強を進めております。また、LGD関係のビジネスを多角化すべく、原石生産技術等の開発を進めると共に、大型ウエハの開発方針を策定し、このための開発活動も拡大いたしました。このために販売費及び一般管理費は増加いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は237,746千円、営業損失は174,471千円、経常損失は158,523千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は162,606千円となりました。また、当第1四半期連結累計期間の製品種類別の売上高は、種結晶170,179千円、基板及びウエハ57,502千円、光学部品及びヒートシンク4,500千円、工具素材5,564千円となりました。

なお、当社はダイヤモンド単結晶の製造、販売、開発事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,944,271千円となりました。その主な内訳は、現金及び預金
が686,681千円、製品が460,212千円、仕掛品が541,526千円となっております。固定資産は3,213,787千円となりま
した。その主な内訳は、有形固定資産が3,157,678千円となっております。

この結果、総資産は5,158,058千円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は218,588千円となりました。その主な内訳は、1年内返済予定
の長期借入金79,144千円、未払法人税等5,774千円となっております。固定負債は251,676千円となっておりま
す。その主な内訳は、長期借入金131,355千円、資産除去債務103,832千円となっております。

この結果、負債合計は470,264千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は4,687,794千円となりました。その主な内訳は、資本金が
1,499,889千円、資本剰余金2,029,489千円、利益剰余金1,160,115千円となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社はLGD分野の状況変化に対応するため、2024年1月にSFDを設立し、8月9日に「(開示事項の経過)当社及
び当社子会社による子会社(孫会社)設立に関するお知らせ」にてお知らせいたしました。SFD India Private
Limitedの設立が完了し、これらの企業を合わせ、従来販売して来た種結晶ばかりでなく、原石や宝石の販売も進
める計画です。

原石を当社が製作、SFDへ販売し、その原石を使った宝石への加工をSFD India Private Limitedで行うことを、
進め方の基本と考えております。これらの組織や体制を確立するため、人材を確保してまいります。また、SFDは
販売の体制を持つことも必要で、これについても早急に体制を整備してまいります。

ダイヤモンドデバイスの開発は急速に進んでおり、世界中の研究機関からの様々な要求に対して、基板やウエハ
を供給してまいります。また、2インチウエハの実用化を目標として、単結晶大型化やモザイクウエハの開発を進
めてまいります。

2025年3月期通期の連結業績予想につきましては、2024年5月10日に公表しました「連結決算への移行に伴う連
結業績予想の公表及び中期経営計画策定に関するお知らせ」から変更はございません。今後連結業績予想の修正の
必要が生じた場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	686,681
売掛金	118,624
製品	460,212
仕掛品	541,526
貯蔵品	78,727
その他	58,499
流動資産合計	1,944,271
固定資産	
有形固定資産	
建物(純額)	925,597
機械及び装置(純額)	2,186,838
その他(純額)	45,243
有形固定資産合計	3,157,678
無形固定資産	4,063
投資その他の資産	52,044
固定資産合計	3,213,787
資産合計	5,158,058
負債の部	
流動負債	
買掛金	5,504
1年内返済予定の長期借入金	79,144
未払法人税等	5,774
賞与引当金	4,208
その他	123,957
流動負債合計	218,588
固定負債	
長期借入金	131,355
退職給付に係る負債	16,488
資産除去債務	103,832
固定負債合計	251,676
負債合計	470,264
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,499,889
資本剰余金	2,029,489
利益剰余金	1,160,115
自己株式	△1,700
株主資本合計	4,687,794
純資産合計	4,687,794
負債純資産合計	5,158,058

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	237,746
売上原価	184,532
売上総利益	53,214
販売費及び一般管理費	227,685
営業損失(△)	△174,471
営業外収益	
為替差益	16,385
その他	461
営業外収益合計	16,847
営業外費用	
支払利息	340
支払手数料	550
その他	8
営業外費用合計	899
経常損失(△)	△158,523
税金等調整前四半期純損失(△)	△158,523
法人税、住民税及び事業税	830
法人税等調整額	3,252
法人税等合計	4,083
四半期純損失(△)	△162,606
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△162,606

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純損失(△)	△162,606
四半期包括利益	△162,606
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△162,606
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)
(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、今後の企業集団における重要性の増加が見込まれるエス・エフ・ディー株式会社を連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社は、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 エス・エフ・ディー株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

当社は、ダイヤモンド単結晶の製造、販売、開発事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	113,771千円

(重要な後発事象)

(子会社の設立)

当社は、2024年8月9日開催の取締役会において、下記のとおり、子会社を設立することを決議いたしました。

1. 子会社設立の目的

当社はLGD (Laboratory Grown Diamond: 人工宝石) を製作するための原料である種結晶を主力商品として販売してきました。2023年3月期の第4四半期から明確となりましたこの市場の大幅な変化に対し、2024年1月に当社100%子会社のエス・エフ・ディー株式会社 (以下「SFD」といいます。) を設立し、この分野での商品を多角化する方針としました。具体的には、加工前のダイヤモンド原石や、加工した宝石を製造、販売いたします。

宝石の販売は、日本においてはSFDが担当しますが、大消費地である欧米における販売拠点を作ることが必要と考えています。この営業活動のためにベルギーのアントワープに現地法人を設立することとしました。

2. 設立する子会社 (孫会社) の概要

(1) 名 称	(未定)	
(2) 所 在 地	ベルギー・アントワープ市 (予定)	
(3) 代 表 者 の 氏 名	藤森 直治	
(4) 事 業 内 容	ダイヤモンド応用製品の輸出入、開発及び販売	
(5) 払 込 資 本 金	200,000ユーロ	
(6) 設 立 時 期	9月 (予定)	
(7) 大株主及び持株比率	当社 45%、SFD 55%	
(8) 上場会社と当該会社との関係	資本関係	当社が45%を直接出資し、当社100%子会社であるSFDを通じて55%を間接出資する子会社 (孫会社) として設立予定です。
	人的関係	当社及びSFDの代表取締役が、子会社 (孫会社) の取締役を兼務する予定であります。
	取引関係	子会社 (孫会社) が販売する宝石及び宝飾品は、SFDやSFD India Private Limitedが製作する計画です。